

令和6年度 病害虫防除情報

令和6年6月26日

発表：福島県病害虫防除所

リンゴ褐斑病の発生が認められています。感染拡大を防ぐため、散布間隔が空かないように、薬剤を散布しましょう。

- 1 対象作物：リンゴ
- 2 病害虫：リンゴ褐斑病
- 3 対象地域：全域
- 4 発生状況等

(1) 病害虫防除所の6月中旬の巡回調査では、新梢葉及び果そう葉での発生は場割合はともに平年よりやや高い状況でした(図1、2)。

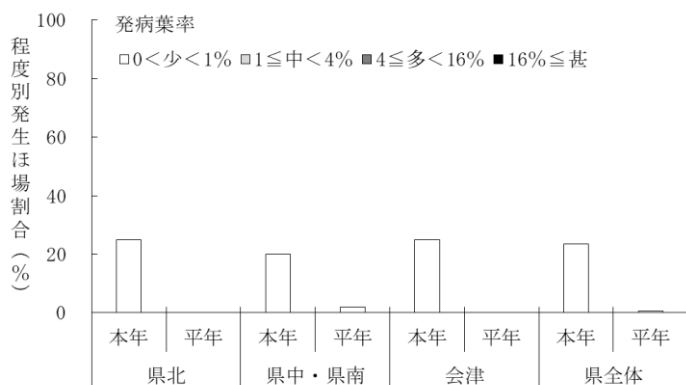


図1 果そう葉におけるリンゴ褐斑病の発生状況(令和6年6月中旬)

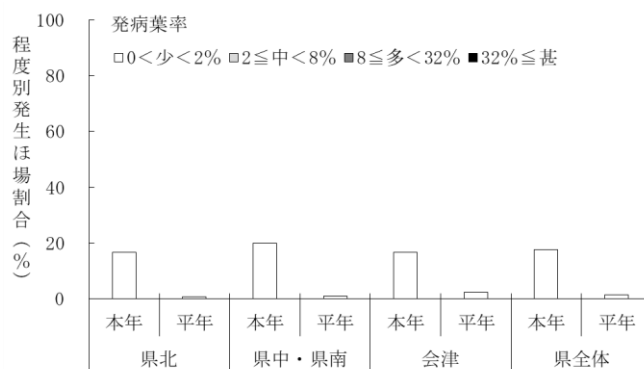


図2 新梢葉におけるリンゴ褐斑病の発生状況(令和6年6月中旬)

5 防除対策

(1) 今後も新梢葉の感染期が続くため、梅雨期以降の多雨などの気象経過によっては多発するおそれがあります。発生が多い場合は、表1から選択した防除薬剤を散布し、感染拡大を抑えましょう。

なお、トップジンM水和剤は耐性菌の出現が確認されている地域があるため、「平成30年度参考となる成果 (<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/315471.pdf>)」を参考に使用する薬剤を検討してください。また、RACコード「3 (DMI剤)」、「7 (SDHI剤)」及び「11 (QoI剤)」の薬剤は耐性菌が出現しやすいため、連用を避けるとともに、使用回数に注意してください。

(2) 散布間隔が空かないよう十分注意するとともに、薬剤の散布ムラをなくすため、薬剤散布前に徒長枝の整理などの新梢管理を行い、薬剤は十分な量を散布しましょう。

(3) 褐斑病の初期病斑の特徴として、葉表の病斑上に分生子層(小黒点)が形成されます。このため、分生子層の有無を10倍ルーペ等で確認する(写真1、2)ことで、斑点落葉病と見分けることができます。



写真1 リンゴ褐斑病の初期症状

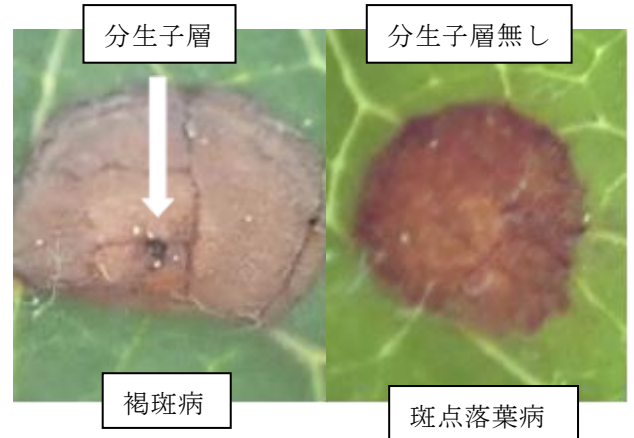


写真2 褐斑病及び斑点落葉病の病斑比較

表1 リンゴ褐斑病二次感染期（7月以降）の防除薬剤の農薬使用基準

薬剤名	有効成分	RAC コード	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数
オンリーワン フロアブル	テブコナゾール	3	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ストロビー ドライフロアブル	クレソキシム メチル	1 1	<u>3,000倍</u>	収穫前日まで	3回以内
トップジンM 水和剤	チオファネート メチル	1	<u>1,500倍</u>	収穫前日まで	6回以内
ナリアWDG	ピラクロ ストロビン	1 1	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	ボスカリド	7			
パレード15 フロアブル	ピラジフルミド	7	<u>2,000倍</u>	収穫前日まで	2回以内
ファンタジスタ 顆粒水和剤	ピリベンカルブ	1 1	<u>3,000倍</u>	収穫前日まで	3回以内
フリント フロアブル25	トリフロキシ ストロビン	1 1	<u>3,000倍</u>	収穫前日まで	4回以内
ユニックス 顆粒水和剤47	シプロジニル	9	2,000倍	収穫14日前まで	4回以内

注) 登録内容は令和6年6月12日現在。希釈倍数の下線は試験研究成果に基づき、効果的な使用方法を示すものである。

● 情報内容への質問は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）まで御連絡ください。本情報は、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>)でもご覧になれます。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727